

「浜松市民文芸」第60集 市民文芸賞受賞者

部 門	作 品・作 品 名	作者(発表名)	氏 名
小 説	節分 夜学の灯 メロンパン	三原遙子 石黒 實 阿部敏広	三浦 富子
児童文学	春の贈り物 かなた 空向のひとり旅	生崎 美雪 宮島 ひでこ	宮島ひで子
評 論	更新されゆくもの 一写真とは何か一 山上憶良	影山 虎徹 中谷 節三	
随 筆	牡丹餅 エレキと草むしり 浮遊	大庭 拓郎 松田 健 さくら珠音	大石 典子
詩	重ねる 訝 祈る	竹内 としみ 北野 幸子 辻上 隆明	石原新一郎
短 歌	勤め上げた亡夫の工場巡り行く音と匂いに逢いたくなりて 猛暑地点赤く塗られて放映さる焼き海老のごと日本列島 上の句をつぶやきながら皿洗う泡の中より結句が生まる 息かけて眼鏡のレンズ拭きており見えてるようにて見えぬ向こう側 ビリビリと引き裂く音に癒されるそんな私は歪んでいるか 柿の種ばかり食む君とピーナツの好きな私と炬燵にふたり 拗ねてゐるだけかもしれないみそ汁の開かない浅蜷つつつしてみる この夜も腹巻をして寅さんのやうなあなたが隣に眠る とおき島グアムに果てし兵あまた悼みて見つむ瑠璃色の海 野ざらしの日本の戦車赤茶けるその小ささに乗りし兵らよ 明けそむる海よりかかる大き虹底に眠れる伯父も見ませり	飯田 裕子 中村 弘枝 " " 土屋香代子 松浦ふみ子 " " 鈴木 和子 " "	松浦富美子
定型俳句	秒針の位置確かむる原爆忌 刀豆の鉦十丁を吊したり 白鳥にときに鯨に秋の雲 水底まで西日わが髪匂ひけり どしや降りの雨を力に牛蛙 霜柱踏めば氷河の崩る音 働きし手首の太く根深汁 露けしや埴輪は口を丸く開け 螻蛄の斧振り上げし面構へ 七五三の髪型同じ姉妹	松本 重延 山本ふさ子 安間あい子 石橋 朝子 成瀬 喜義 伊藤 斉 宮澤 秀子 渡辺きぬ代 平野 道子 鈴木 利久	
自由律俳句	穂先風に揺れ止まるに止まれず赤蜻蛉 媚びまとうそのバラの無口を溺愛す 送られてまた送ってゆく夕日の町	飯田 弘 河村かずみ 賀 代	井手賀代子
川 柳	ボタンかけ違えてからの隙間風 揺れ動く心鏡に見透かされ 行間へ懺悔ふつつ古日記 春風に誘われ蝶になってみる	山口 英男 馬淵よし子 竹山恵一郎 竹平 和枝	